

つくば市と地質標本館—市民交流のかけ橋—

倉田 弘¹⁾



写真1 つくば市の中心地から筑波山を望む。

つくば市は、昭和62年、筑波研究学園都市を構成する6か町村のうち5か町村が合併をして誕生した新しい市です。つくば市は、首都東京から50kmという比較的近い所に位置しておりますが、緑豊かな田園風景が広がり、それが研究学園都市として開発された地区と調和した田園都市の形態を有しております。

筑波研究学園都市については、すでにご存じの方も多いたと思いますが、簡単にご説明いたしますと、東京の一極集中を緩和することと老朽化した国の試験研究・教育施設を新しく建設し、しかもそれらを集積することによって交流を深め研究の成果を上げることを目的として建設されました。現在、研究学園都市として開発された面積約2,700haの中では、筑波大学、工業技術院あるいは農業研究センターなど自然科学系を中心に47の国等の試験研究・教育機関が移転し研究を行っています。また、このような背景から、つくば市は、国や県レベルの視点に立つ広域的な役割を課せられています。国レベルでは、首都機能の一翼を担う業務核都市として位置付けられていますし、また、新つくば計画が策定され地域発展の核としてさらに国際的な都市として成長していくこと

が期待されています。県レベルでは、つくばが持つ発展エネルギーを茨城県南部及び西部に及ぼすことを目的としてグレーターつくば構想が策定されています。

このようにつくば市は、日本有数の研究学園都市として市の内外から大きな期待を集めておりますが、解決しなければならない課題も数多くあります。その大きな課題の一つとして、研究機関と地域住民がいろいろな面で相互に交流することによって心豊かな日常生活を営んだり教育的な効果を上げることができるヒューマンスケールの地域社会を築くことがあります。

一般の人々にとりましては、研究機関の重要性は、よくご理解しているもののそれを身近なものとして日常生活の中で位置付けていくことは、意識の自己変革や交流活動が必要となります。また、研究機関の方々にとりましても新しい土地でそこに住む人々と新しい交流を結ぶことはそれなりの努力が必要となり

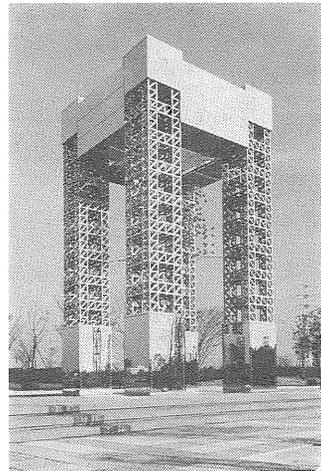


写真2 筑波研究学園都市で開催された国際科学技術博覧会 (EXPO '85) を記念して、万博会場跡に建てられたオブジェ「科学の門」。

1) つくば市長：〒305 茨城県つくば市谷田部4711



写真 3 第1展示室の「日本列島大型地質模型前」で、居合せた吾妻小学校生徒と共に。

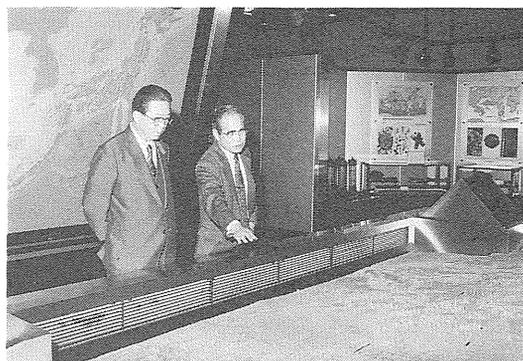


写真 4 第2展示室の「太平洋の海底地形模型」前で、神谷地質標本館長から説明を受ける。

ます。まして、自分たちの研究を媒体としてより良い地域社会を築いていくとなると、相当な努力が必要になると思います。

しかしながら、ここに住み、ここに働き、そしてここに憩うことを大きな喜びとすることができる真に快適で、活力があり、そして常に向上がある人間のまちを目指していくうえで、行政がなお一層の努力をすることはもちろんですが、市民一人一人がそれぞれの立場で課題を克服していかなければならないと思います。

この様な状況の中で、つくば市に立地する研究・教育機関は、地域住民との交流や子供たちの教育のために大変なご努力をされています。たとえば、筑波大学や図書館情報大学では、各種の一般公開講座を豊富なメニューにより数多く開いております。また、多くの研究機関では、一般公開やその見学者への説明などを実施しています。つくば市では、各研究機関が、大変高度でしかも専門的な研究をされているにもかかわらず、広く一般の人々に分かり易く誠意をもってご教授下さっていることに対して日頃から感謝をしているところです。

地質調査所は、地球科学に関する国立の総合研究機関として、大きな責任のもとに地質・地下資源に関する調査研究、技術開発及び資料の編纂などを行うことによって、国土の利用保全、防災あるいは経済社会の発展の最も基本となる部分で重要な役割を果たしておられるわけですが、それらの重要な研究を一般の人々が理解するための総合的な窓口として地質標本館が設置されていると思います。開館10周年を迎えられました地質標本館については、上述しましたつくば市の大きな課題の一つであります研究機関と地域住民の交流について、筑波への移転当初から実践されてきた機関として認識しております。そのことに対して敬意を抱いております。

地質に関する研究と申しますと一般的には、どちらか

といえば地味な分野という印象を持たれると思いますが、地質標本館を訪れますとその認識が変わっていくのが感じられるのではないかと思います。世界中から集められた珍しい鉱石、数億年も前の化石、あるいはとても綺麗な宝石やその原石が整然としかも豊富に展示されております。また、地層や火山の内部などをいろいろな装置を使うことによって分かり易く説明しております。

その様な事から、現実の社会に大きな影響を及ぼす内容を調査・研究されておりますが、同時に、過去への憧憬、そして未来への期待と夢があることが感じられ、一般の人々は、この地質標本館から地質に関する研究に対する認識を新たにし、また、身近なものとしてとらえることができると思います。同時に、地質標本館の入館者についてお聞きしますと、子供たち(小・中・高校生)の入館者数がたいへん多く、地域住民の子弟の教育という面での貢献がうかがわれます。また、県の内外さらには国外からの入館者も多く、地質標本館の果たしてきた役割は、誠に大きなものであると思います。

この様に、つくば市の中で、地質標本館は、研究機関と地域住民との交流という面で先駆的な役割を果たしてきたということが言えます。つくば市にとって研究機関と地域住民の交流は、大きな課題の一つであることはすでに述べましたが、今後、地質標本館のような活動がより多くの研究機関に波及していくことを期待するとともに、一般の人々が、この様な活動を理解し、研究機関と地域住民の交流の問題を再認識することによって、いろいろな面で交流活動を起こされることを強く期待しています。

地質標本館が開館いたしましたから10年の長きに渡り精力的な活動を展開してきたことに対しまして衷心からお礼と敬意を表しますとともに、今後、益々、内容等の充実を図りながら地域の中で親しまれる標本館としてご活躍されること期待いたします。〈受付：1990年5月1日〉